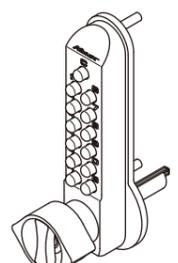
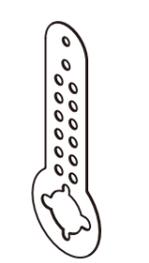
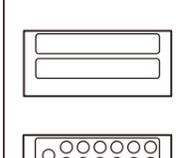
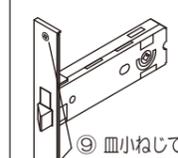
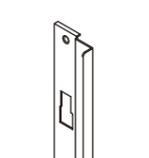
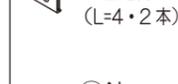
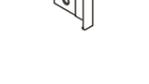
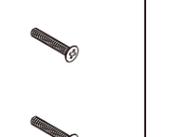
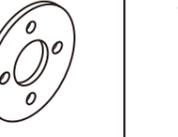
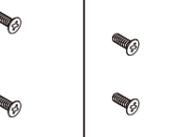


玉座取替 ヨコ付け仕様 切欠き・取付説明書

このたびは NAGASAWA 製品をご採用いただき、誠にありがとうございます。製品を正しく施工していただくために、本説明書の内容をご確認ください。引渡し時に、別紙取扱説明書（お施主様向）を、お施主様へお渡しください。

梱包内容一覧・表を参照のうえ、部品の有無をご確認ください。

																	
①キーレックス本体 1	②ゴムプレート 1	③室内押え座 1	④丸皿小ねじ L=30・40 各1	⑤記憶番号シール 2種 (各1)	⑥取説 set 1	⑦錠 ⑧平面フロント板 各1	⑩L型フロント板 1	⑨皿小ねじで 固定済 (L=4・2本)	⑪室内側握り玉 1	⑫室内側取付板 1	⑬皿小ねじ L=25 2	⑭スペーサー 1	⑮丸座固定レンチ 1	⑯皿小ねじ L=35 2	⑰皿小ねじ L=12 ⑱皿コンビねじ L=20 ねじ 各2		

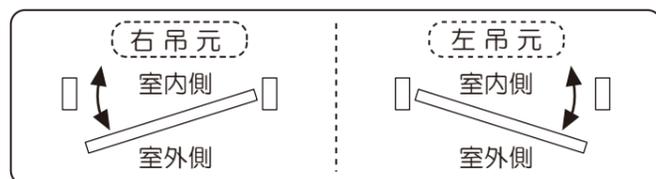
取付手順

【1：扉の吊元位置を確認してください】

下図で扉の吊元を確認します。右吊元時は【2】に進んでください。

左吊元時では、本体の間に挟んである防水シートの向きと、錠の取り付け向きが変わります（詳しくは右欄）。

⑤記憶番号シールを①KL 本体正面と側面に、ボタン番号を合わせ貼ります。



【2：既存製品の取り外しと、扉への穴、追加加工】

現在取り付けられている握り玉、錠（取付ビスピッチを確認する）を取り外します。既存の切り欠きを確認してください。

既存の切り欠き穴の中心から扉中央部（161mm）へ、直径10mmの貫通穴を追加加工してください（裏面：切り欠き図参照）。

【3：錠の取り付け】

【3：錠の取り付け】

⑦錠と⑧平面フロント板を固定している※⑨皿小ねじ（L=4 2本）を外します。この⑨皿小ねじは後で使います。紛失しないでください。

⑦錠を扉にセットし、ねじ2本で取り付けます。

（扉にあわせて、⑰皿小ねじ L=12 又は ⑱皿コンビねじ L=20）

【錠取付ビスピッチ：60 / 64 / 69.5 / 80 / 90 / 100 / 110】

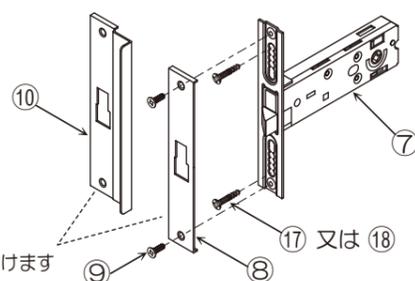
⑧平面フロント板 か

⑩L型フロント板を

扉にあわせて選び、

※⑨皿小ねじ 2本（L=4）

で錠に固定します。



扉にあわせてどちらかを取り付けます

【4：KL 本体と室内側の取り付け】

室外側から①キーレックス本体（ロックターンはヨコ向き）に②ゴムプレートをあわせ、⑱角芯棒の青色面と⑳錠のカム穴凸部分をあわせてセットします。

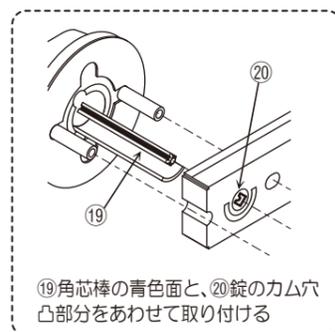
室内側から③室内押え座を④丸皿小ねじで固定します（扉厚 25～35mm L=30 / 扉厚 35～40mm L=40）。

室内側から⑫取付板（⑭スペーサー）をセットし、皿小ねじで固定します（取付ピッチ 44mm）。

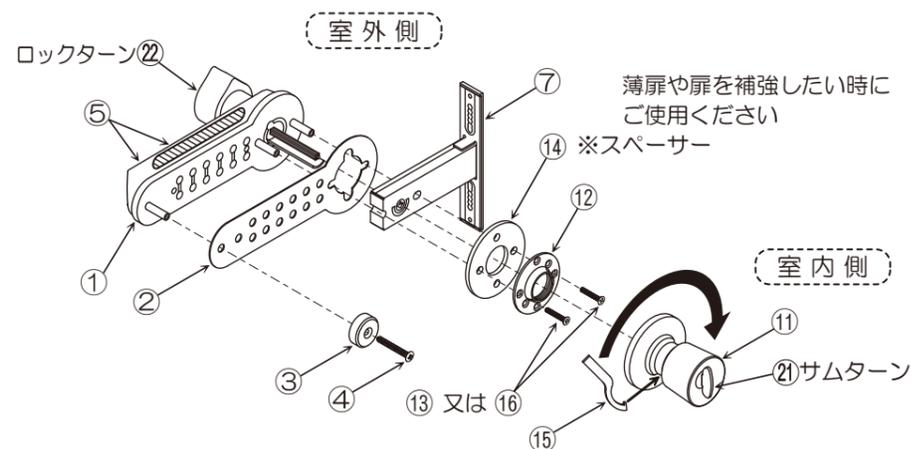
（扉厚 25～35mm ⑬皿小ねじ L=25 / 扉厚 35～40mm ⑯皿小ねじ L=35）

⑪室内側握り玉を⑫取付板にあわせ、時計回りに回して取り付けます。

⑮丸座固定レンチを⑪室内側握り玉の軸にある穴に挿し込み、時計回りに締め付けて固定してください。



⑱角芯棒の青色面と、⑳錠のカム穴凸部分をあわせて取り付け



薄扉や扉を補強したい時にご使用ください ※スペーサー

【5：作動確認】

ドアを開けたままの状態でおこないます。

室内側 施錠：⑳サムターンを、戸先側に 90° 回し、デッドボルトが飛び出すことを確認します。

解錠：㉑サムターンを、丁番側に 90° 回し、デッドボルトが収まることを確認します。

室外側 施錠：㉒ロックターンを、戸先側に 90° 回し、デッドボルトが飛び出すことを確認します。

解錠：正しい記憶番号を押します（C ボタンを押してから、記憶ボタンを押します）。

㉒ロックターンを丁番側に回しきり、デッドボルトが錠に確実に収まることを確認します。

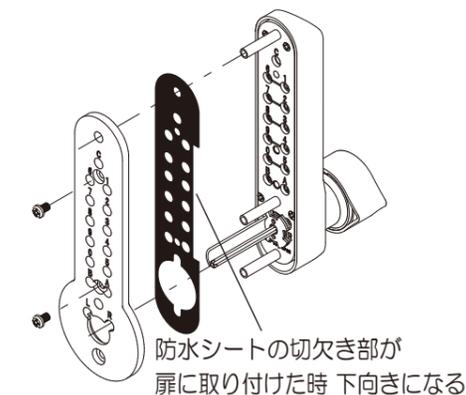
㉒ロックターン、を戸先側に 90° 回し、ロックターンをヨコ向きにしてください（初期設定位置）。

※ ロックターン・サムターンが作動しない場合は記憶番号と、⑱角芯棒が正しく取り付けられているかを確認してください。

左吊元時の確認

【1：キーレックス本体】

本体の間に挟んである防水シートの向きを下図のように変えてください。



【2：錠：向きを変える】

左吊り元でご使用時は、錠をラッチが上になる様（下図参照）取り付けてください。フロント板の取り付けも同様です

